
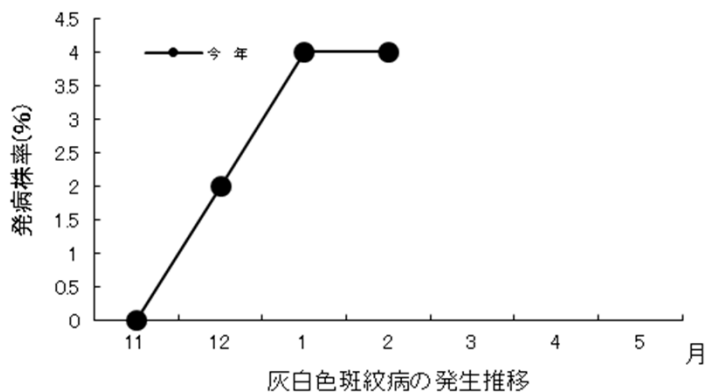


作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	灰白色斑紋病		
2月の発生量(現況)	判定不可		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	媒介虫のミナミキイロアザミウマが増加する見込みであることから、2月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、発病株率は4.0%(前年2.0%)であった。



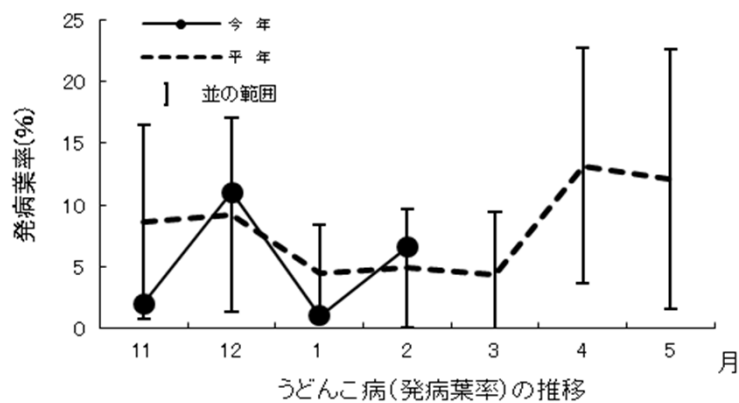
防除のポイント

- ・ 本病はミナミキイロアザミウマによって媒介されるウイルス病である。
- ・ 発病株は感染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒・洗浄を行う。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
2月の発生量(現況)	並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	今後1か月の降水量が少ない見通しから、2月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、発病葉率は6.6%(前年4.2%、平年4.9%)と平年並であった。



防除のポイント

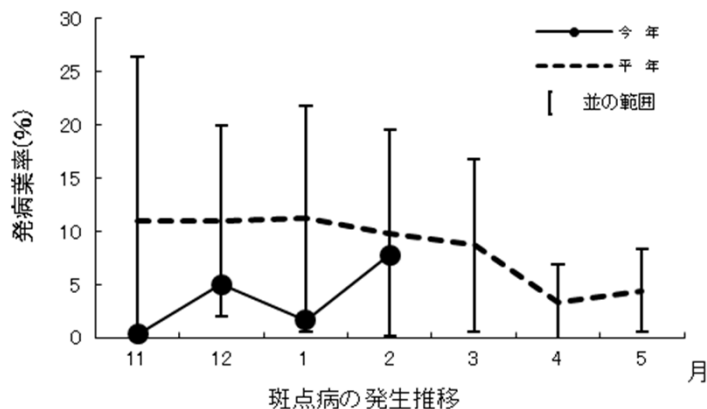
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 斑点病		
2月の発生量(現況)	並		
3月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、2月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 2月中旬の調査の結果、発病葉率は7.8%(前年22.8%、平年9.8%)と平年並であった。

(今年のデータ)



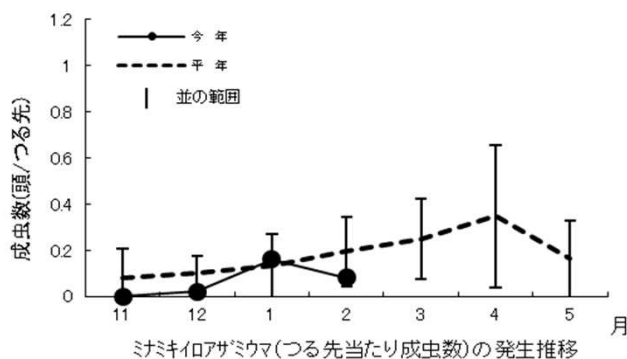
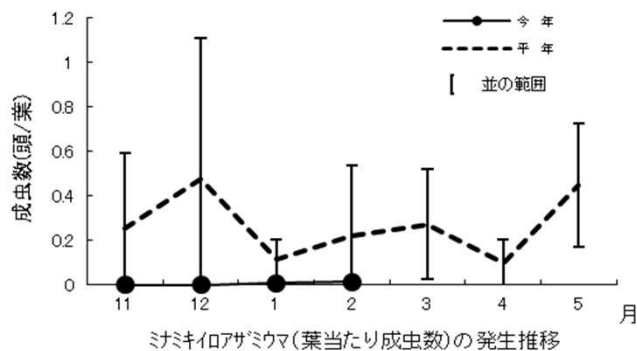
防除のポイント

- ・ 葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・ 老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・ 多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
2月の発生量(現況)	並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.01頭(前年0.14頭、平年0.22頭)と平年並で、つる先当たり成虫数は0.08頭(前年0.32頭、平年0.19頭)と平年並であった。



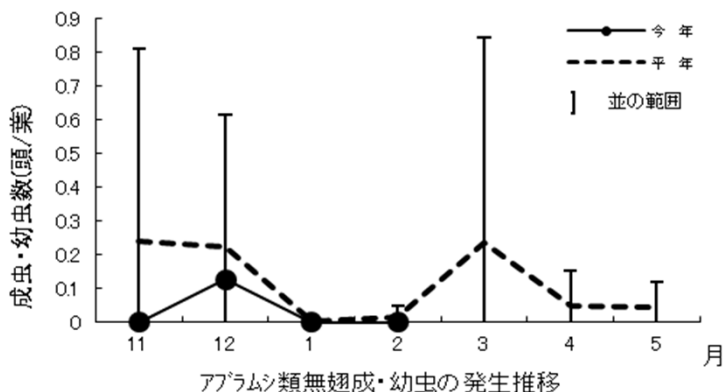
防除のポイント

- ・ 本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
2月の発生量(現況)	(発生なし)並		
3月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、2月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 2月中旬の調査の結果、葉当たり無翅成虫・幼虫数は0頭(前年0頭、平年0.01頭)と平年並で、葉当たり有翅成虫数は0頭(前年0頭)であった。



防除のポイント

- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。